

令和4年度 第2回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：令和5年1月31日（火）15：30～16：50

▼会 場：千歳市役所第2庁舎会議室5・6

▼出席者

（構成員）市長	山口 幸太郎
教育長	佐々木 智
教育長職務代理者	荒井 由紀恵
教育委員会委員	杉本 功
教育委員会委員	曙 嘉輝

※橋場教育委員から事前に欠席連絡あり。

（教育部）教育部長	磯部 進一
教育部次長	村井 安之
学校指導室長	松原 謙二
企画総務課長	井戸川 邦彦
学校教育課長	中島 肇
学校指導課長	桂川 淳
企画総務課総務係長	阿部 健
（事務局）企画部長	品田 雅俊
企画部次長	小尾 千智
企画課長	澤田 篤
企画課企画調整係長	荒川 綾
企画課企画調整係主任	小澤 稜

▼内 容

○品田企画部長

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、企画部長の品田でございます。本日の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

会議開催前に1点ご報告申し上げます。

4期16年にわたり教育委員を務められた佐々木 義朗様が令和4年9月30日で任期満了により退任され、新たに曙 嘉輝様が就任されていることをご報告いたします。曙委員にどうぞよろしくお願いいたします。

ただいまから、令和4年度第2回千歳市総合教育会議を開催いたします。

それでは、ここで本会議の議長であります山口市長からご挨拶をお願いいたします。

○山口市長

教育委員の皆さん、今日は、お忙しいところご参集いただきありがとうございました。総合教育会議も回を重ね、毎回本市の教育課題について情報共有をしながら、教育行政の振興に努めていただいたところですが、その都度、教育委員の皆さんには、適切なご意見をいただいているところで、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症は未だ収束しておりませんが、国の方針では、この新学期、5月くらいからノーマルな形にしようということになっており、それについては様々な課題があるものと思っており、その課題については、教育委員会、各学校と協力しながら、子ども達の学校生活に支障のないように、なおかつ活発な学校生活を送れるように進めていきたいと考えております。そのことについては、教育委員会、各学校の方針が決まりましたら、皆さんにお知らせしたいと考えております。

本日の議題は、全国学力・学習状況調査結果と学力向上の取組についてであります、今日も闊達な意見交換をお願いします。

また、今回の総合教育会議から参加していただくこととなりました曙委員においては、どうぞよろしくお願いします。

○品田部長

それでは、ここからは私が進行を務めさせていただきます。

これより本日の議題に入ります。

議題は3点で、1点目は「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果」について、2点目は、「学力向上の取組について」、3点目は「その他」としてありますが、1点目と2点目の議題については、内容が重なる部分が多いことから、一括で意見交換をしたいと考えております。

それでは、桂川学校指導課長から、説明をお願いします。

(資料に基づき、「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果」について説明、「学力向上の取組について」、電子黒板や学習者用コンピュータを用いた模擬授業を交えながら説明。)

○品田部長

ご説明いただき、ありがとうございました。

1点目の「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果」について、及び2点目の「学力向上の取組について」、現在のICT機器を活用した学力向上の取組について、実際に児童生徒が使用している機器の体験を交えながらご説明いただきましたが、授業の感想なども含めて、委員の皆様からご質問やご意見はございませんか。

○荒井教育長職務代理者

丁寧な説明ありがとうございました。学習者用コンピュータについては、初めて体験しましたが、なかなかみんなの前で発言ができないという子でも、端末だと言えるというこ

とはすごくいいことと思いました。つながっている感があり、先生の進め方も上手だったので、面白く授業に入ることができました。子ども達も楽しく授業に参加できているものと思います。ぜひ今度は、実際の現場も見たいと感じました。ありがとうございました。

○桂川学校指導課長

この授業については、今までは、写真を全部人数分印刷して、13枚を1セットとして子ども達に配って話し合いをさせていたものです。また、委員が言ったように、声の小さい子の参加という点では便利だと、改めて感じています。

○杉本委員

写真といくつかの資料を関連付けて考えられる場面が中心だったと思います。いくつかの資料を何かにまとめるという言語活動を取り入れていることが、子ども達の力になると思いますので、今回は総合学習の時間でしたが、国語や数学、算数の授業改善でもこういった視点でやっていくといいと思いました。

○曙委員

子どもの頃以来、久しぶりに授業に参加しましたが、大変入り込みやすく、楽しかったです。先生には、子ども達を話に入り込ませる能力が大事と思っており、それを実感しました。先生の話聞く生徒が増えれば、それに伴って学力も向上するものと思いましたので、そういう取組ができたらいいいと感じました。

○桂川学校指導課長

曙委員のおっしゃる通りで、教師の授業力が何より大事と認識しています。それがあると、先生の自信にもなりますし、保護者からの信頼も得られるものです。私も、今の立場で、先生方が授業の力を付けるよう支援していきたいと思います。

○杉本委員

3つあるテーマの1点目の「身に付けたい資質」について、意見を申し上げます。

全国学力・学習状況調査や高校入試、大学入試の問題を通して、これまでと違う資質、能力が求められていることはわかりました。大事なことは、授業改善をしながら、子ども達に力を身に付けさせるということだと思います。ただ、それがなかなか進んでいないという現状もあるのではないのでしょうか。説明の中に、「道半ば」という言葉もありましたけれども、現状はどうなのかを伺いたいです。また、それに伴う今後の見通しはどのようにお考えでしょうか。

○桂川学校指導課長

授業改善の現状は、先生が一方的に話すだけの授業であるとか、ワークを解いて、丸付けをして終わり、という授業に終始することがないように求められています。

児童同士、生徒同士の横の関係を構築したい、そういう授業を作ろうとしています。新

しい授業づくりといっても、教えなければならないことは必ずあります。それを否定するものではありません。ただ、自分で気づいたこと、発見したこと、仲間から伝えられたこと、仲間に伝えたことは記憶に残るものです。先生が言うよりも、自分で気づく、仲間に伝えられることの方が、児童生徒の力になることは事実です。

そのため、授業改善にあたって、どんな力をつけさせたいか、明確なゴール設定を教師がまず持つことが何より大切だと思います。今経験していただいた通り、横の関係をつなぐための一つの道具として、学習者用コンピュータはとても便利です。先生方には、まず便利だと思ってもらうことが大事なことだと思っています。

今、現場の先生方は、「学習者用コンピュータが使える」ということを実感しているところです。教員によっては、児童生徒同士の、横をつなぐことが苦手な先生もいます。教師は、どうしてもたくさんしゃべってしまいがちで、十知っていることを十しゃべってしまいます。

一方的な発信に偏りがちですが、そうならないよう、意識改革が必要ですし、また、今のような授業は、クラスの中に温かい関係がないと成立しません。温かい環境がないとなかなか難しいので、そこができなくて、授業改善につながらないということがあります。今後も、学校の中心には授業改善を置いて、児童生徒に授業が楽しいと思ってもらうことが学力向上の第一歩と思っておりますので、指導助言に努めてまいりたいと思います。

○荒井教育長職務代理者

いただいた資料の2ページ目にありますが、中学生の家庭での過ごし方で、ここ数年、千歳市でも話題になっている生徒の一日当たりのスマートフォンの使用時間について、全道に比べると突出しているように思います。私たちもそういう認識を持っていますけれども、ご家庭での教育が必要だと思いますが、改めて現状課題を整理していただき、教育委員会や学校、地域などで何かできるなど、お示しいただければと思います。

○桂川学校指導課長

資料2ページ目の円グラフにある通り、中学生の家庭での学習時間は小学校に比べても伸びていない状況にあります。

私も中学校の教師をずっとやってきましたが、生徒は、放課後に部活をして18時、帰宅後に自分の時間、家族との時間、今はSNSなどで仲間とつながる時間があります。また、ゲームもしたい、インターネットもちょっと見たいということで、気づくともう寝る時間になっているということがあります。最終的に何を削っているかというと、一般論では、やや学習時間を削っている状況にあるということは、調査結果からも言えるものと思います。

ただ、今回載せていませんが、千歳子ども達は、「将来夢がある」、「人の役に立ちたい」と回答した生徒が85%くらいいました。それはすごくいいことで、生徒達の長所だと思いますが、それが勉強とリンクしていない状況にあると思います。委員会としては、まずは学校教育の中で授業が楽しい、授業が分かるという生徒を増やしたい、それが学習意欲向上の第一歩と考えています。

現在は、小中連携で、同じ中学校区の先生がまずつながって、情報交換を進めています。

どんな授業をしているのか、お互いにわかることが大事です。そういう風に授業をしていけばいいということを共有しており、それは、先生の刺激になっています。それが児童生徒に還元されていくものと思います。

また、PTAやコミュニティスクールなどの場面でも、地域の方のアイデアも取り入れることと、児童生徒をみんなで育てるというメッセージが、先生を応援することになり、先生の勇気につながるものと思います。

○曙委員

今年の夏から小学校でも学習者用コンピュータが持ち帰りになるということですが、私も小2の子どもがいます。具体的に小学校ではどういう使われ方をするのか、また、毎日持ち帰りだと、結構重たいと思いますが、ほかの教材を学校に置かせてもらえるのか、子どもの負担も考えながらどう対応するか、教えてください。

○桂川学校指導課長

今、中学校で先行して学習者用コンピュータの持ち帰りを実施しています。授業で終わらなかったことも、グーグルクラスルームに入ると、その日の授業を振り返ることができ、また、そこから課題につながるという状況です。今日みたいに、フォトストーリーが授業中にできなかった場合でも、家に帰って、クラウド上で作成することができます。それがどの教科でも今後できることになります。小学生でも同じようにできるものと想定しています。

ただ、小学校は、低学年から高学年まであり、発達段階がありますので、使い方も検討する必要があるものと思います。また、中学校では先生が出した課題に取り組んで、クラウド上に上げるなど、宿題が出されて、提出するというものもしています。そのほか、レポートを提出したりもしています。

小学校では発達段階に応じた使い方になるものと思いますが、今、デジタルドリルを無料で試用しており、それを使っている小学校、中学校もあります。来年の夏以降、小学校で学習者用コンピュータの持ち帰りが始まったら、様々な取組にチャレンジしたいと考えています。

また、先ほど持ち帰りが重いというお話もありましたが、中学校の中には、学習者用コンピュータを毎日持ち帰っている学校もあり、また、必要な時だけ持ち帰っている学校もあります。現在、中学校では、持ち帰ってもいいし、置いていってもいい教材を増やし、選択肢を増やして対応しています。委員会としてもそのような指導をしているところであり、持ち帰る荷物がどんどん増えることのないように配慮していきたいと思います。

○荒井教育長職務代理者

一部の小中学校では、デジタルドリルを使用しているところもあると聞きます。私や私の子どもの頃は、紙の宿題が当たり前で、朝学習なども紙でプリントを配られていました。今後、デジタルドリルはどのように活用されていくのか教えてください。学校の教育環境が様変わりしているので、ついていく保護者も大変かと思うが、対面授業とオンライン授業のハイブリットはいいことと思っており、どんどんやっていただきたいと思いますが、

デジタルドリルは今後どのように広まっていくのか、ハイブリットの考え方を教えてください。

○桂川学校指導課長

デジタルドリルの現状についてお話しします。現状は試行期間として無料で使っているものです。利用する狙いとしては、学習習慣がつくことと思います。私は小学校も中学校も経験がありますが、理想としては、学習は癖にしたい、習慣づけたいということです。これは、小学校段階で習慣がつくことで、中学1年生の段階で差がつくことがあります。デジタルドリルの良さの一つとしては、鉛筆は持ちづらかったけど、タブレットはできるという子どももいるので、そうした子どもがデジタルドリルをすることによって学習習慣が身につくことを期待しています。

また、間違えた問題をフィードバックできるところがいいところです。これは、紙だと実現しなかったところです。習熟度の高い子どもにとっては、課題を終わらせたときに、一つ先に進んだりもできますし、習熟度に応じて、必要なところに戻することもできます。紙の宿題だと、子どもが問題を解けなかったときに、白紙で出されることがありますが、わかるところまで戻ることも可能なことは、今使っているデジタルドリルの良さだと思います。

先生の立場でお話しすると、中学校だと比較的、自分の教科に関する教材は財産として結構あり、それをクラウド上で載せることもできます。小学校は、一人の先生がやっているんで、国語、算数、プールなどやらなくてはならないことがたくさんあり、そこに家庭学習、宿題、プリント印刷もこなさなくてはならず、本当に忙しいです。今使っているデジタルドリルの良さとして、そうした先生の助けにもなると思います。先生の時間確保が、児童を見つめる時間になりますし、明日の授業を考える時間にもつながりますので、学力向上につながるものと考えています。

○荒井教育長職務代理者

デジタルドリルの教科は何教科ありますか。

○桂川学校指導課長

基本的には国語と算数が中心になりますが、業者によっては複数教科用意しているところもあります。

○荒井教育長職務代理者

書き取りはできますか。

○桂川学校指導課長

書き取りに関してはタッチペンで可能ということです。

国語のデジタルドリルでは、タッチペンで書くと、書き順まで判定してくれる機能があります。

○杉本委員

身に着けたい資質について、授業改善に取り組む必要があり、各学校では研究や研修の中で創意工夫をしながら取り組んでいて、それは様々な場面で知るところであります。一方で、教育委員会の重要な施策となっている学力向上検討委員会について、今回のテーマには上がっていませんが、その取組を市内全体の各学校に広げることも、授業改善を着実にものにしていくという点では重要と思います。

今後も、教育委員会に指導してもらいながら、各学校に深めていってもらいたいと思います。

○桂川学校指導課長

おっしゃる通り、学力向上検討委員会のモデル校の取組が全校に広がるといいと考えております。

○佐々木教育長

今日は、模擬授業をしていただき、ありがとうございました。

私も、これまで学校に行って、学習者用コンピュータを活用した授業をみたことはあるが、受けたのは初めてで、大変勉強になりました。

特に今年度、石狩管内の目標は学力の向上に特化しています。その背景としては、全国学力・学習状況調査の結果、石狩管内は全道では上位に位置しているわけではないということがあります。

ほかの地域から転勤してくる先生に聞くと、千歳の子ども達はすごく素直でいい子達ばかりで、この授業を受けているから学力は向上していいはずだというのですが、実際には上がっていないという状況です。その背景として、一つは、家庭学習時間の少なさというのが挙げられると思います。

学習者用コンピュータを導入することによって、今日皆さんに体験していただいたように、授業するほうも受けるほうも楽しく、もう少しやりたいと感じると思います。

ただ、学習者用コンピュータの導入は、全国一斉ですので、市としても、ぜひ、いろんな条件をそろえて、学力向上に努めたいと考えています。学校の授業の改善というのは、それぞれの学校でやってもらうしかありませんが、委員会としてもそれをサポートする体制や、機器の整備、教員の人事配置など、学校を後押しし、子ども達の力がつくようにしたいと考えています。

今日はそれを実感できたので、非常に有意義だったと思います。

○品田企画部長

委員の皆様から、ほかに何かございませんか。

貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

それでは、議題の1点目「令和4年度全国学力・学習状況調査の結果」と、2点目「学力向上の取組について」は、報告済みとさせていただきます。

次に議題の3点目「その他」といたしまして、委員の皆様から何かございませんか。

ご意見などないようですので、以上をもちまして、本日の議題はすべて終了となります。

次に、次第の「4 諸連絡」についてであります。来年度の会議につきましては、5月以降に日程調整をまいります。

このほか、緊急に開催する必要があると認められる案件が発生した場合は、随時開催いたしますので、よろしくお願いいたします。事務局からは以上であります。

以上をもちまして、令和4年度第2回千歳市総合教育会議を終了いたします。

大変ありがとうございました。